短　報

牛の腹腔内に認められた *Actinobacillus lignieresii* による多巣性化膿性肉芽腫

丸山覚詞[1)†]　芝原友幸[2)]　藤元英樹[1)]

1）鹿児島県志布志食肉衛生検査所（〒899-7104　志布志市志布志町安楽 5972-10）
2）㈱研)農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門鹿児島研究拠点
（〒891-0105　鹿児島市中山町 2702）

（2024 年 1 月 23 日受付・2024 年 7 月 2 日受理・2024 年 9 月 26 日公開）

本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/77/9/77_e137/_article/-char/ja

要　　約

鹿児島県内のと畜場に緊急搬入された牛（黒毛和種，雌，56 カ月齢）の解体後検査において，腹腔内の軟部組織を中心に直径約 1～4 cm の播種性腫瘤を認め，腹腔内播種性腫瘍あるいは感染性病巣の多発が疑われた．腫瘤は組織学的にアステロイド体を伴う化膿性肉芽腫性炎が認められ，アステロイド体内部の菌体は抗 *Actinobacillus lignieresii* 血清を用いた免疫組織化学に陽性反応を示した．さらに，腫瘤から単離されたグラム陰性桿菌は，生化学性状試験と 16S rRNA 遺伝子及び *rpoB* 遺伝子のシークエンスにより *A. lignieresii* と同定された．以上の成績より，本症例を腹腔内アクチノバチルス症と最終診断した．
――キーワード：アクチノバチルス症，牛，黒毛和種．
----------日獣会誌　77，e137～e143（2024）